

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード 4-3-2		事業名 救急隊増強整備	
担当 消防局警防部救急課 長山 215-2070			
全体計画			
事業内容	救急需要に迅速・的確に対応するため、救急需要が多く救急隊の現場到着に時間を要している地域に救急隊を増強するとともに、消毒室等の救急関連施設を整備した。		<年度別の事業内容>
	1 救急隊の増強 全市的に、救急需要が多く救急隊の到着に時間を要している地域(東区札苗地区)に救急隊1隊を増強配置した。 2 消毒室の設置 傷病者及び救急隊員の感染防止を図るため、増強配置所の施設内に消毒室を設置した。		【平成19年度】実施済み 【平成20年度以降】実施予定なし
事業内容・量・場・所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)
	東消防署警防課 札苗出張所 に救急隊1隊を配置 同出張所に消毒室を設置		平成21年度事業内容(決算)
		平成22年度事業内容(予算)	

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	4-3-2			事業名	救急隊増強整備		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
救急隊数(累計)	30隊	31隊				31隊 (19年度)	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
市民との連携、市民参加 該当なし  企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 該当なし							
評価(成果)			課題				
救急サービスの平準化を図ることで、誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりが推進されることから、平成19年10月に札幌地区に救急隊1隊を増強した。 これにより、救急需要(管轄人口・出動件数)等が平準化され、さらに、札幌地区への救急車の到着時間が短縮できた。			救急隊が受け持つ人口カバーについては平準化が図られ、救急車の到着時間の短縮も期待できるところであるが、市内の一部では、救急車の到着に時間を要している地区があることから、既存の救急資源を効率的かつ効果的に活用する事業展開が必要と考える。				
今後の事業の予定・方向							
今後、高齢化の進展に伴い救急搬送における高齢者の搬送割合の増加や感染症などの集団感染等による救急需要の増加が見込まれる場合は、適宜、既存の救急資源を効果的に活用するほか、救急隊の適正配置も視野に入れた柔軟な対応が必要であるとする。							

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		4-3-2		事業名		救急隊増強整備		
事業費の推移								
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費	37,000	0	0	0	37,000		
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0	
		市の債	27,000	0	0	0	27,000	
		その他の	0	0	0	0	0	
		一般財源	10,000	0	0	0	10,000	
予算	事業費	37,000	0	0	0	37,000		
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0	
		市の債	27,000	0	0	0	27,000	
		その他の	0	0	0	0	0	
		一般財源	10,000	0	0	0	10,000	
実績	事業費	36,606	0	0	0	36,606		
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0	
		市の債	24,000	0	0	0	24,000	
		その他の	0	0	0	0	0	
		一般財源	12,606	0	0	0	12,606	
事業費の進捗率		(H19実績 + H20実績 + H21実績 + H22予算事業費) / (計画事業費)					98.9%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)								
(全体)								
[19年度] 計画どおり予算化、事業を実施。								
[20年度]								
[21年度]								
[22年度]								